

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100413		
法人名	医療法人外海弘人会 日浦病院		
事業所名	認知症老人グループホームポンジュールそとめ		
所在地	長崎市神ノ浦丸尾町1180-3		
自己評価作成日	平成24年10月	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ポンジュールそとめは市内から少し遠く西海市に近い所にあります。高齢者が多い地域です。海と県民の森に囲まれ自然豊かで教会などもあり歴史もあります。ポンジュールの名前の由来はフランスとの姉妹都市の関係からつけられました。ホームは神ノ浦河川公園の前にあり、足を伸ばすと棚田、県民の森がありピクニック、ドライブと自然を満喫できます。医療法人 外海弘仁会 日浦病院の経営する1ユニットのホームです。今年は、長崎市消防局より救急サポートステーションとして標章を頂きました。全職員が救急救命の修了書を頂きAEDも設置しています。避難訓練には近所の方も協力して頂いています。地域の方から季節のお花や野菜を分けていただくなど心温まる関係です。地域の行事には積極的に参加し学童の子供達と夏祭りやレクリエーションで交流しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の緊急時対応の意識は高く、グループホームが緊急サポートステーションの役割をなし、AEDの設置も行っている。母体の病院が行う研修内容は介護のみならず、医療の研修があり、職員が介護の質を向上させる機会となっている。キャリア研修を生かした介護計画書により、利用者と職員が無理をせずに共に楽しく暮らせるような支援を行っている。年2回の消防訓練に地域住民が参加したり、地域住民が集えるような市の出前講座を開催したり、利用者の作品を地域の行事に出品するなど地域との関わりを持つようにしている。車いすの利用者が2階と1階を行き来できるようにエレベーターを設置している。利用者の外出支援のため玄関が見える窓を作り、利用者の外出したい思いを尊重して職員と一緒に寄り添いながら、日々、安心安全な暮らしができるような支援を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年11月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に貼り出しています。会議や申し送りなどの時間に理念について話し合い、どうすればよいか検討しあっています。	管理者と職員が共に考えた理念は「人としての尊厳の尊重と、地域で安心して、安全な自立した生活をおくれるような支援を行うこと」である。利用者との会話の中でも尊厳を尊重した配慮を行っている。また、地域住民や派出所との交流を通して安心安全な生活を送れるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに積極的に参加しています。「ふれあい祭り、こいこい祭り、散歩未知」学童の子供達と夏祭りやレクレーションをし交流しています。食材など地域のお店を利用しています。	地域の商工会などの案内により、地域の行事に参加したり、小学生の訪問によるボーリング大会やシャボン玉など元気な歓声上がる交流会を行っている。また、グループホームを会場にして市の出前講座の開催を行い、地域住民が集えるような働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	救急サポートステーションとしての貢献に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者も会議に参加し、社会の情報を聞いたり、意見を述べられることもあります。意見があれば職員皆で話し合いサービス向上に努めています。	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催され、活動報告や地域交流の話が行われている。利用者、包括支援センター職員、地域住民の参加で行われているが、家族の参加が難しい状況である。	利用者の家族が運営推進会議へ参加することが難しい状況であるが、開催日程等を考慮した上で、今後出席できるような運営推進会議の実施が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいています。ホーム便りを議事録と一緒に送り見ていただいています。	ホームだよりや運営推進会議の議事録を市へ送付し、グループホームの様子がわかるようにしている。質問事項などはファックスを行い、電話にて返事を頂くような体制になっている。また、介護相談員の受入を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きの資料をもとにホーム内で勉強会をしています。外に出て行こうとされる方には外出の機会を多く持ち毎日の散歩をしています。	グループホーム内の研修にて、どのようなことが身体拘束になるのかを理解し、利用者にとって頂く時には理由を説明した言葉かけを行うようにしている。利用者の外出を把握できるように、玄関が見える窓をつくり、職員と一緒に外出できる支援の取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についても身体拘束禁止の勉強会時に行いました。他の施設での出来事の記事を取り上げ何が悪いのか、どうすべきかと話し合い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の身内や、新しく入居された方が成年後見人制度を利用されるようになり学ぶ機会がもてました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年は介護報酬改定があり又、部屋代をあげた為ご家族様の意見を求めたり、説明を行い個々の同意書を頂きました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族様から要望があれば出来る範囲で反映するようにしています。特に現時点ではありません。	苦情解決の相談窓口は入居時に説明を行っている。介護計画書を家族へ発送する時にアンケートと一緒に送付し、要望等の意見を聞き出す取り組みを始めている。家族の要望により誕生会を一緒にお祝いする場合もある。意見箱を設置しているが、日常的には口頭での要望等となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見、提案を聞けるようにしている。又、代表者(院長)にも直接メールでできるシステムもあります。	職員は代表者へ直接要望等と言える体制となっている。利用者の外出把握と支援のために玄関が見える窓の設置、衣類乾燥機の購入や倉庫の設置などの要望が運営に反映されている。人事考課により職員の目標が運営の質の向上になるような取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れてあり、職員が自ら目標を設定し行動する。それに対して評価され等級、給与が上がるようになっている。安全衛生委員会も設置されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修、法人の内部研修、ホーム独自の勉強会に参加している。資格取得に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しているのでボウリング大会で交流したり、研修会を通し情報交換したり、共に勉強する事でサービスの向上にとりくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っている事や希望を聞き取り、不安がないように対応策を職員間で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の話を良く聞き、要望に答えていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様を見守りつつ職員の気づきと情報を共有し、何が必要かを話し合いつつ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶を飲みつつ世間話をしたり、昔話を聞いたりする事で共に生活しているというきずなを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室でくつろいで面談できるように環境を整えている。又、ホームでの生活状況等を伝え本人様の思いが伝わるようにしたり、電話の取次をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅を時々訪問出来る様にしたり、手紙を出したり電話を取り次いだりしています。親戚、知人等の面会時には居室で心ゆくまで談話できる環境に努めています。	馴染みの人からの声かけで、野菜や花などを提供していただくこともある。住み慣れた自宅の近くまで外出したり、近況報告には写真を添えて手紙を出すなどの途切れない関係作りの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイム時(10時)やレクレーション(15時)でお話をしたり、一緒にドライブやお使いに出かける事で関わり支え合えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所された場合でもお見舞いに行き、元気を取り戻されるように声をかけています。亡くなられた方には葬儀に参列しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の声によく耳を傾け、職員に話しやすいような状況を作っている。個別の聞き取りを職員で共有し、買い物、外出の支援に取り組んでいる。	入居前の利用者の思いや暮らしの情報を職員で共有している。日常の会話のなかでゆっくりコミュニケーションを取ることが大事であると考え、その時の状態や状況に応じて利用者が何を望んでいるのか把握し、場合によっては文章を書いて意思の疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気づいた事や、会話の中から分かった事を記録しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	A,B,C勤とそれぞれの入居者の担当を決めて個別記録を毎日記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアプラン会議を行っています。又、個別ごとに本人、担当介護、家族と話し合っています。	家族の要望や利用者のできること、困りごと、希望などを聴き介護計画を作成して、短期目標や長期目標としている。ケアプラン会議にて毎月見直しを行っている。キャリア研修を活かした介護計画の実施により、利用者と職員が共に無理をせず楽しく暮らせるような支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン会議で意見交換したり、毎日の記録より朝、夕の申し送り時に情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、病院の受診、リハビリ外出など出来る限りその時々々の要望に答えるようにし、その時に支援出来ない事もある時は、ホームの事情も考えて予定表を組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい外海ふるさと祭りに作品を出品したり、神ノ浦散歩未知でいろんな所(お菓子作り)にでかけて地域の方と交流しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日浦病院より院長が毎週1回来られます。又、本人様の希望があれば他の病院へも受診の支援をしています。	利用開始時に連携医療機関の説明を行い同意を得ている。母体病院による週1回の訪問診療を受けており、その他の診療科目についても概ね職員が通院介助を行っている。受診結果の報告はご家族へ連絡を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や発熱時に電話連絡して指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先の看護師と情報提供し又、院長より情報を頂いています。地域連携室とも連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていません。入所時の説明書にも記載しています。	看取りは行わない方針を入居時に説明して同意を得ている。急変時には母体病院との連携を行い、24時間入院できる体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署の救急救命の講習を受け修了証書を頂いています。又、自主訓練を行って忘れないように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や場所が決まっています避難訓練にはホームの近所の方にも参加していただいています。	消防署立会のもと年2回地域住民の協力を得て、夜間想定を含めた通報・初期消火・誘導・水消火器の訓練を行い、避難場所の現地確認をしている。AEDの設置と職員の緊急時対応の意識が高くグループホームが緊急サポートステーションの役割をしている。災害時に備えては日常用飲料水の保存となっている。	災害時に備えて備蓄用保存水や食品及び他の備蓄品についても検討が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう言葉を選んで対応し、声の大きさにも注意している。個人情報、守秘義務については職員に誓約書をとっている。	理念である人としての尊厳の尊重を念頭において、言葉かけやトイレ誘導の声かけなどに注意している。個人情報の書類は一定の場所に保管し、職員には入社時に守秘義務の誓約書を取るようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段よりコミュニケーションを大切にしています。殆どの方が自分の希望、思っている事を話されます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一度に無理な事もあり、本人様とも話し合いつつ本人様のペースに合わせて日程、時間を決めています。(外出、散髪など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容院への支援を行っています。服選びをアドバイスしたり、外出時は特に適切な身だしなみを声かけしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮し別メニューを提供していません。調理の下ごしらえ、盛り付け、片付けと個々に応じて出来る事を手伝ってもらっています。	利用者ができる下ごしらえは共に行っている。食前に音楽を流し、職員の指導のもとに嚥下体操を行っている。好き嫌いを把握し、別品目のおかずや季節の食材及び状態に応じた刻み食の対応となっている。外食時は場所やメニューの下見を行い楽しく食事ができるような支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のたてたメニュー表を利用し調理しています。普通食以外にほぐし食も提供しています。水分は10:00、15:00の補給、個別に居室で飲めるようにお茶も配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施しています。出来ない方には職員が介助しています。口腔ケアの研修に参加しているので職員は口腔ケアの大切さを理解し、実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて時間を見ながらトイレ誘導をしています居室には必要に応じてポータブルを設置しています	排泄パターンの把握や食前、食後の誘導などによる声かけを行っている。利用者が使いやすいようにポータブルトイレの位置等の工夫を行っている。また、リハビリパンツから布パンツへの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にヨーグルト、牛乳を飲用していただいています、10時と3時又居室でも飲めるようにしています。必要時、下剤を服用していただいています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の体調に合わせて入浴されています又タイミングを見て入浴していただき、特に入浴日は決まっています	入浴日や回数、時間は決まっていない。一人で入浴できる利用者は就寝前に入浴を行っている。同性介助の対応も行っている。車いすの利用者も浴槽に浸かる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室やリビングのソファで休まれています、昼間の散歩やレクリエーションで、ほど良い疲れ夜間休まれるようにしたり就寝前の入浴で安眠できるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から来る説明書で確認しています、受診の支援をしているので体調の変化薬の変更時は申し送り全職員へ情報共有しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者全員が役割り活動が出来るよう職員や本人様と話し合っています、その方の出来る力を楽しみを持てるプランを検討しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝数名の方がドライブや図書館、買い物と出かけたり、ホーム全員でピクニック食事会、花見など出かけています	朝の散歩や図書館及び買い物の支援を行っている。図書館へ行けない利用者がある場合は本を借りてくるなどの支援を行っている。グループホーム近辺のダム、資料館、漁港などへ出かけて四季を体感できるような支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は本人様が自由に使っています又家族様よりホームで預かり必要に応じて本人様に渡す時もあります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次や手紙のやりとりも支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り昔懐かしい歌の歌詞を書いて貼ったり、その日のホームの行事予定を掲示しています	朝の散歩で摘んだ花や地域の方からの花のプレゼントなどをリビングに生けて季節感を出すようにしている。車いす利用者が2階と1階を自由に行き来できるようにエレベーターが設置されている。掃除は毎日利用者も手伝いながら職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いています又中庭にはベンチを置いて座れるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはソファや畳を置きくつろげるようにしたり本人様の電化製品も置かれています	おむつや日用品などは職員の手作りの棚に収納している。居室には温度計を置き、エアコンにて温度管理を行っている。外出時に摘んだ花、写真、ソファ、畳及びポータブルトイレを置くなどして利用者やご家族の要望に応じた居室になっている。掃除は毎日職員と共に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には数多くの手すりつけています、居室内にもつけている部屋も有ります		